

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年6月7日(2018.6.7)

【公開番号】特開2016-209128(P2016-209128A)

【公開日】平成28年12月15日(2016.12.15)

【年通号数】公開・登録公報2016-068

【出願番号】特願2015-93460(P2015-93460)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/89 (2013.01)

【F I】

A 6 1 F 2/89

【手続補正書】

【提出日】平成30年4月19日(2018.4.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長手（L）方向に延びる略管状体に形成され、当該略管状体の内部より円周（C R）方向に拡張可能なステント（1、11、21）であって、

前記略管状体は、円周（C R）方向に拡張する環状ユニット（4）と、当該環状ユニット（4）を長手（L）方向に接続する連結ユニット（5、25）とを有し、

前記環状ユニット（4）は側部（S）方向の一端部を前記連結ユニット（5、25）の一端部を介して接続し、複数の環状ユニット（4）を長手L方向に配列し、

前記連結ユニット（5、25）は、円周（C R）方向に、二個の連結ストラット（5 S T、25 S T）を配置し、

二個の連結ストラット（5 S T、25 S T）は、環状ユニット（4）の基端（P E）側と末端（D E）側の一端部に接続し、当該環状ユニット（4）を中心に見て、お互いに重ならないように非対称の位置に配置した、ことを特徴とするステント（1、11、21）。

【請求項 2】

長手（L）方向に延びる略管状体に形成され、当該略管状体の内部より円周（C R）方向に拡張可能なステント（1、11、21）であって、

前記略管状体は、円周（C R）方向に拡張する環状ユニット（4）と、当該環状ユニット（4）を長手（L）方向に接続する連結ユニット（5、25）とを有し、

前記環状ユニット（4）は側部（S）方向の一端部を前記連結ユニット（5、25）の一端部を介して接続し、複数の環状ユニット（4）を長手L方向に配列し、

複数の略蔓巻線状のストラット（S P S T）を有し、当該略蔓巻線状のストラット（S P S T）は、3個以上の連結ストラット（5 S T）と4個以上の環状ストラット（4 S T）とにより成ることを特徴とするステント（1、11、21）。

【請求項 3】

前記環状ユニット（4）は、ストラット（4 S T）を円周（C R）方向に、側部（S）の一方向に複数個の山部（M）と他の側部（S）の一方向に複数個の谷部（V）を介して接続することにより、円周（C R）方向に連続して略波形状に形成し、

前記ストラット（4 S T）、山部（M）及び谷部（V）とによりクラウンユニット（C R U）を形成し、

当該クラウンユニット（C R U）を円周（C R）方向に奇数個配置した、ことを特徴とす

る請求項 1 または請求項 2 に記載のステント (1、1 1、2 1)。

【請求項 4】

連結ストラット (5 S T、2 5 S T) は、略直線状または略屈曲状であることを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載のステント (1、1 1、2 1)。

【請求項 5】

連結ストラット (5 S T、2 5 S T) は、長手 (L) 方向に、基端 (P E) 側から末端 (D E) 側に見て、基端 (P E) 側から末端 (D E) 側へ下るように配置したものと、基端 (P E) 側から末端 (D E) へ昇るように配置したものとを交互に配置した、ことを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載のステント (1、1 1、2 1)。

【請求項 6】

環状ユニット (4) は、略直線状のストラット (4 S T S) と略曲線状のストラット (4 S T C) を有し、当該略直線状のストラット (4 S T S) と略曲線状のストラット (4 S T C) は円周 (C R) 方向に、山部 (M) と谷部 (V) を介して、交互に配置したことを特徴とする請求項 1 から請求項 5 のいずれか 1 項に記載のステント (1、1 1、2 1)。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

[1] 本発明は、長手 (L) 方向に延びる略管状体に形成され、当該略管状体の内部より円周 (C R) 方向に拡張可能なステント (1、1 1、2 1) であって、
前記略管状体は、円周 (C R) 方向に拡張する環状ユニット (4) と、当該環状ユニット (4) を長手 (L) 方向に接続する連結ユニット (5、2 5) とを有し、
前記環状ユニット (4) は側部 (S) 方向の一端部を前記連結ユニット (5、2 5) の一端部を介して接続し、複数の環状ユニット (4) を長手 L 方向に配列し、
前記連結ユニット (5、2 5) は、円周 (C R) 方向に、二個の連結ストラット (5 S T、2 5 S T) を配置し、
二個の連結ストラット (5 S T、2 5 S T) は、環状ユニット (4) の基端 (P E) 側と末端 (D E) 側の一端部に接続し、当該環状ユニット (4) を中心に見て、お互いに重ならないように非対称の位置に配置したステント (1、1 1、2 1) を提供する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

[2] 本発明は、長手 (L) 方向に延びる略管状体に形成され、当該略管状体の内部より円周 (C R) 方向に拡張可能なステント (1、1 1、2 1) であって、
前記略管状体は、円周 (C R) 方向に拡張する環状ユニット (4) と、当該環状ユニット (4) を長手 (L) 方向に接続する連結ユニット (5、2 5) とを有し、
前記環状ユニット (4) は側部 (S) 方向の一端部を前記連結ユニット (5、2 5) の一端部を介して接続し、複数の環状ユニット (4) を長手 L 方向に配列し、
複数の略蔓巻線状のストラット (S P S T) を有し、当該略蔓巻線状のストラット (S P S T) は、3 個以上の連結ストラット (5 S T) と 4 個以上の環状ストラット (4 S T) とにより成るステント (1、1 1、2 1) を提供する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

[3] 本発明は、前記環状ユニット(4)は、ストラット(4 S T)を円周(C R)方向に、側部(S)の一方向に複数個の山部(M)と他の側部(S)の一方向に複数個の谷部(V)を介して接続することにより、円周(C R)方向に連続して略波形状に形成し、前記ストラット(4 S T)、山部(M)及び谷部(V)とによりクラウンユニット(C R U)を形成し、当該クラウンユニット(C R U)を円周(C R)方向に奇数個配置した[1]または[2]に記載のステント(1、1 1、2 1)を提供する。

[4] 本発明は、連結ストラット(5 S T、2 5 S T)は、略直線状または略屈曲状である[1]から[3]のいずれか1項に記載のステント(1、1 1、2 1)を提供する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

[5] 本発明は、連結ストラット(5 S T、2 5 S T)は、長手(L)方向に、基端(P E)側から末端(D E)側に見て、基端(P E)側から末端(D E)側へ下るように配置したものと、基端(P E)側から末端(D E)側へ昇るように配置したものとを交互に配置した[1]から[4]のいずれか1項に記載のステント(1、1 1、2 1)を提供する。

[6] 本発明は、環状ユニット(4)は、略直線状のストラット(4 S T S)と略曲線状のストラット(4 S T C)を有し、当該略直線状のストラット(4 S T S)と略曲線状のストラット(4 S T C)は円周(C R)方向に、山部(M)と谷部(V)を介して、交互に配置した[1]から[5]のいずれか1項に記載のステント(1、1 1、2 1)を提供する。